

平成30年度 学校関係者評価報告書

学校法人呉竹学園
東京医療専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人呉竹学園 東京医療専門学校 学校関係者評価委員会は「平成29年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

鍼灸マッサージ科 鍼灸科	業界関係	岩元 健朗	(東京都鍼灸師会)
	保護者	大竹 健一	
	卒業生	二神 幸一	
柔道整復科	業界関係	西沢 正樹	(帝京平成大学)
	保護者	春日井 有輝	
	卒業生	内野 直樹	
高等学校	進路指導	山口 智基	(千葉県立浦安高等学校)
	校長	齊藤 秀樹	
鍼灸マッサージ科/鍼灸科	科長	船水 隆広	
柔道整復科	科長	杉山 直人	
鍼灸マッサージ教員養成科	科長	中村 真通	
	事務長	建石 泰三	

2. 平成29年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

評価項目	平均値	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1. 教育理念・目的・育成人材像	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ●各科とも教育理念に基づき、教育目的・育成人材像が明確に定められている。 ●専門的知識・技術の修得による臨床能力の強化が図られるカリキュラム構成がなされている。 ●学校案内やホームページに教育理念や目的、育成人材像が明記されている。 ●「自ら未来をつかみ取る力を育む」というキーワードが校風を端的に表現していると考ええる。 ▲卒業生を対象とした卒後臨床研修講座の内容が鍼灸あん摩マッサージ指圧分野に偏っているため、柔道整復分野の講座開催を希望する。 ●年間延べ10,000件の患者が来所する各施術所の症例を教育に反映していることは評価できる。 	<p>○教育理念・教育目的・育成人材像を全教職員が引き続き理解を深めていくことにより、学生に対して知識・技術を提供する機会を拡充することに努めていく。</p> <p>○TCI コーチングや学園附属教育センターの一層の活用により、学力向上に向けての初年次教育の充実と効率的な補習授業並びに生活指導を含めた個別指導の充実を図っていく。</p> <p>○注力している学外活動・特別授業(モチベーションアップセミナー)・臨地実習を通じて業界との連携を密にすることにより、変動する社会のニーズを即時把握し教育に反映していく。</p>
2. 学校運営	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ▲新カリキュラムが計画に沿って運営され、結果から改善を加え、社会のニーズに応える人材の育成に繋げていくことが学校運営の発展につながると考える。 ●校長会など学園3校にわたる会議を通じて、経営戦略や新カリキュラムについての検討と情報共有が行わ 	<p>○法令倫理に則った適切なコンプライアンス体制を構築し、それらを共通認識として共有することで法令遵守を徹底していく。</p> <p>○学園附属教育センター主導で教職員の業務能力教育力を高めていくとともに、学園3校の教</p>

		<p>れていることは評価できる。</p> <p>▲全学科に言えることであるが、学生に対してさらに学術団体および業団体が開催する研修会への参加を呼びかけ、学外での研鑽の機会を増やすよう指導すべき。</p> <p>▲学校周知の手段として SNS をさらに充実させ、学校の動きや行事などの情報が外部に分かりやすく簡便に提供できるよう希望する。</p>	<p>職員が教育に関する情報を共有できる体制を整えていく。</p> <p>○臨地実習提携治療院及び医療機関に臨地実習のフィードバックを積極的に求め、その知見を全学生に反映させる体制を整えていく。</p> <p>○人事評価制度を試行し、教職員の担当業務を上長が把握・評価することにより適切な学校運営に繋げていく。</p>
3. 教育活動	3.8	<p>▲新カリキュラムの導入を、臨床実習の機会が増え臨床力を高めるために良い転換点と捉えて取り組んで欲しい。</p> <p>▲外部講師を招聘して開催しているセミナーの名称を、従前のモチベーションアップセミナーからチャレンジセミナーのような積極的な名称に変更してはどうか。</p> <p>●新学則にて、出欠席の取り扱い基準を厳格化したことは、学生にとって良いことであると考ええる。</p> <p>●インターンシップやゼミナールなど、実践的な学びの機会が設けられていることは評価できる。</p> <p>●新しい教育計画・カリキュラムに従い、大幅に授業時間数・臨床実習時間数が増え、より医療に関する知識と実践的な臨床能力を持った学生を育成できると期待される。</p> <p>▲インターンシップ制度の充実化、学外の活動への学生の積極参加、時間外の講座の充実化（介護、トレーナー、医療英語 等）など、さらに教育活動を拡充して欲しい。</p>	<p>○新カリキュラム初年度の内容・成果・問題点を次年度の改善に活用できるよう整理し、教科書・配布問題についても検討を重ねる。</p> <p>○法令で定められた教育内容（医学的知識、技術の修得）に重点を置きながらも、業界・社会が求める実践力を持った臨床家を育成するための方策として、企業や治療院の講師による特別授業の実施、インターンシップの拡充を図る努力をする。また、卒後臨床研修講座も学会と連携し卒業生のスキルアップを支援する。</p> <p>○今後も補助教材および試験問題の工夫を重ねていく。</p> <p>○教員は業界団体主催の研修会・セミナーに積極的に参加し研鑽を積んでいる。今後は外部講師が本校で行う特別授業（モチベーションアップセミナー）またはゼミに教員ができる限り臨席し臨床力の向上及び新しい技術の吸収に努める。</p> <p>○成績不良者のフォローに注力しがちであるが、成績優秀者をさらに伸ばして業界を牽引する人材を輩出することを目指す。そのためには専任教員・講師問わず情報を共有する体制を整えていく。</p>
4. 学修成果	3.4	<p>●結果として、国家資格取得に向けた取り組みは十分であると言える。</p> <p>●成績不良者の補講授業は充分に取組がなされている。</p> <p>●生徒の学力低下傾向に対し補講を行ったり、生徒の就職に対するモチベーションを高めるために2年次から就職説明会に参加させたりしていることは評価できる。</p> <p>●8月までに就職先を内定させることは好感される。</p> <p>▲進級試験が廃止されたことにより、どのようにして学力を持続的に向上させていくかという問題が提起されている。学生の明確な目標認識、出口の充実化、国家試験合格に向けての道程を明確にするためアンケートや目標を学生自ら書き出させてはどうか。</p> <p>▲退学者の減少のため、保護者向けに適宜現状報告を行ってはどうか。</p>	<p>○退学の要因となる学習意欲の低下や成績不良に対して、入学時の早い段階から治療院見学などを通して施術者としての意識を高めていく。</p> <p>○3年次全員卒業、国家試験全員合格を目指し、逆算した教育を施していく。そのための手段となる各委員の指摘（クラスの連帯感涵養・年次毎の特定条件に基づくクラス分け・寺子屋式学習）について検討を重ねていく。</p> <p>○学園附属教育センター及び外部業者を活用し、教員のコーチングスキルを高めていく。</p> <p>○学園が運営する国家試験予備校『kuretake塾』の教育ノウハウを、在校生の補習において活用していく。</p> <p>○留年者を出さない為の対策を、学園としてプロジェクトチームを立ち上げ取り組む。</p>
5. 学生支援	3.4	<p>●十分に学生支援がなされていると考える。</p> <p>▲就職ガイダンスにて就職した学生の就職後の追跡調査が重要。より良い就職先をスクリーニングすると共に、良い就職先ならばOB訪問などに繋げていく。</p> <p>▲高校卒業見込みで入学する学生が多い柔道整復科I部は担任を2人体制にするなど、学生に目の行き届く仕組みづくりを検討して欲しい。</p>	<p>○就職ガイダンスの開催を外部委託しているが、学生が就職後不利益を被らないよう企業の質を担保できる仕組みを検討する。</p> <p>○校友会組織『呉竹会』や業界と連携を図り、インターンシップなどの取り組みを強化する。</p> <p>○精神面のケアに対応すべく教員の対応力の向上のため積極的にセミナーへの参加を促す。</p> <p>○保護者との密な連携を図り、学校教育への理</p>

			<p>解を促進していく。</p> <p>○経済的支援として、学生支援室を中心に各種公的支援制度を積極的に紹介している。</p> <p>○退学・留年の要因となる欠席・成績不良に対して迅速に対応できるよう、徴候が発生した時点で担任が学業意欲・人間関係・メンタルケア等のきめ細かいフォローを行い、また教職員全体で担任をフォローできる体制作りをする。</p> <p>○学費が原因で学業を断念することがないよう、教務と事務が密接に連携していく。</p> <p>○保護者に本校の教育方針、教育内容についての案内送付を検討する。</p>
6. 教育環境	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ●毎年防災訓練を行い、所轄消防署に報告している。 ▲現校舎の老朽化が学習環境、ひいては学校の悪評につながらないよう対応が必要である。 ▲防災対策において、夜間特修コースの時間帯が弱いと感じる（教職員の人数、連絡体制など）。 ●平成30年度より鍼灸科は新校舎四谷5号館を利用しており、最新の施設・設備を活用できている。 ●既存校舎の修繕を怠らない姿勢は評価できる。 ●予算を設定して新刊図書を購入しており、古書と合わせて15,000冊の蔵書がある。 	<p>○専門家による卒前の特別授業や卒後臨床研修講座を増やしていく。</p> <p>○学園附属の東洋医学臨床研究所においてスポーツ医学に関する研究と臨床を行い、鍼灸科附属施設において鍼灸小児外来を設けている。症例及び研究結果は学園医学会を通じて、3校にフィードバックしていく。</p> <p>○大学や他分野専門学校、治療院企業との連携を検討していく。</p>
7. 学生の募集と受け入れ	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ●教育成果を含めた具体的な学校情報を提示することで学校への理解を促進している。 ●志願者が求める説明、情報開示に努めている。 ▲受験者数の増加と募集定員を満たす学生数の確保が急務と言える。独立開業権のない理学療法士、スポーツトレーナー、整体、リラクゼーション、エステなどの養成校の学生や卒業生に募集案内を送付してはどうか。 ●HP、SNS、パンフレットやリーフレット等が刷新され、内容が充実したと考える。 ▲入学者の減少は、本校にとどまらず他校でも切実な問題である。本校に入学することの優位性を明確し、アピールする努力が一層望まれる。 ▲高校生の募集について課題があるように感じられる。 ▲社会人の在校生が在籍することによりクラスが引き締まると考えるため、社会人募集についても対策すべきである。 	<p>○高校生の保護者に課外活動の充実を求める層が一定数あるため、ゼミ・セミナーの一層の充実を検討していく。</p> <p>○高校生に対し、高校運動部と連携してスポーツ関連の出張講座を放課後・部活後に開催していく。</p> <p>○社会人に対し、専門学校は学費面および時間的に通学しやすいことをアピールしていく。また、スポーツ系の大学・専門学校に通っている学生に対して、スポーツ関連の公開講座を開催することを検討していく。</p> <p>○質の高い学生を確保するために、各委員の指摘（本校の強み・立地条件・高校生、スポーツ系学生及び大学生へのアピール・新入生アンケート）について検討を重ねていく。</p> <p>○卒業時のアンケート調査に加えて、卒業後1か月後、または数か月後の追跡調査を実施する。</p> <p>○はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師は資格保持と同時に開業治療ができることや中途採用が多いという業界特有の事情に応じた就職状況を学校案内やホームページ等により伝えていく。</p>
8. 財務	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ●外部監査を取り入れ、適正な学校会計によって健全な学校経営を維持している。 ▲入学者の増加と退学者の減少を目指し、学校独自の魅力を開発・再発見することによって学生数の増加とともに財務の安定を図ることが望まれる。 ▲入学者の減少、定員割れの状況が、財務に与える影響について懸念される。財務を安定させるためにも、学生募集の強化が不可欠と言える。 	<p>○募集活動の強化、退学率の低減に努める。</p> <p>○退学率の原因を詳細に調査し、改善を図っていく。</p>

9. 法令等の遵守	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ●特に問題なく適正な運営がなされている。 ●学校関係者評価委員会を年2回実施し、その評価・意見を学校運営の改善に反映している。 ●結果をホームページ上に公開することで、誰もが閲覧でき、透明性や健全性を担保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○法令遵守にあたっては、規定を整備し、全教職員間において周知徹底を図ることにより、コンプライアンスを推進する体制を早期に実現していく。 ○専門家の助力を求めながら法令倫理に則ったコンプライアンス体制を構築し、教職員及び学生に法令遵守を徹底していく。 ○自己評価内容を教職員に周知し、実行に移していく。
10. 社会貢献	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ●東京マラソンボランティア、新宿シティーハーフマラソンボランティアへの積極的な学生参加があり、評価できる。 ●様々な学会やイベントに専任教員が出向いて講演を行っていることは良い試みである。 ●スポーツイベントに医療ボランティアとして教員および学生が参加しており、一方地域貢献として新宿区、渋谷区で育児イベントを開催するなど、積極的に社会貢献活動を行っていると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○より広い地域との関わりが持てるよう、地域連携に力を注ぐ努力を行う。 ○業界団体をはじめとする様々なボランティア活動の周知、支援を行っていく。 ○健康イベントや学園祭を通じて地域住民、近隣施設や企業との関わりがあるが、さらに地域連携に力を注いでいく。 ○各種学会の主管や人員の派遣を通じて業界団体と関わりがあるが、今後も様々な活動の支援を行っていく。 ○ボランティア活動は学業に支障がないことを条件に支援、指導していく ○本校または校友会主催の講演会に地域住民が参加できるよう企画する。

3. 総評

上記10項目に対し、委員による評価の平均値は3.8(4段階評価)であったことから、東京医療専門学校の教育活動、学校運営は概ね高い水準で維持されていると評価します。

以上